様式1

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程　通学・通信）

事業者名 パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙３「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画					臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容					
1 職務の理解 6 時間	1 職務の理解			6 時間	1 職務の理解	1 職務の理解			6 時間	
		通学	通信	合計			通学	通信	合計	
(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義のみ	(1) 講義のみ	3	0	3	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左	3	0	3	(2) 講義・演習：視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。	(2) 講義・演習：視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。	3	0	3	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援			9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	2 介護における尊厳の保持・自立支援			9 時間	
		通学	通信	合計			通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左	0	4	4	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0	4	4	
(2) 自立に向けた介護	(2) 同左	1.5	3.5	5	(2) 通信講習／講義・演習：介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話合います。	(2) 通信講習／講義・演習：介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話合います。	1.5	3.5	5	
3 介護の基本 6 時間	3 介護の基本			6 時間	3 介護の基本	3 介護の基本			6 時間	
		通学	通信	合計			通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左	1.5	0	1.5	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	1.5	1.5	
(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	(3) 講義・演習：事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	1.5	0	1.5	
(4) 介護職の安全	(4) 同左	0	1.5	1.5	(4) 通信講習のみ	(4) 通信講習のみ	0	1.5	1.5	

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画					臨時的代替方法による実施内容			
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容				
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間				4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携	4 介護･福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 介護保険制度	(1) 同左	3	0	3	(1) 通信講習／講義･演習：介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	(1) 通信講習／講義･演習：介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	3	0	3
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0	3	3
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0	3	3
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間				5 介護におけるコミュニケーション技術	5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	0	3	3	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0	3	3
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	3	0	3	(2) 講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(2) 講義･演習：言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話合います。	3	0	3
6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6 時間				6 老化の理解	6 老化の理解 6 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(1) 講義･演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	3	0	3
(2) 高齢者と健康	(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0	3	3
7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6 時間				7 認知症の理解	7 認知症の理解 6 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左	0	1.5	1.5	(1) 通信講習のみ	(1) 通信教育のみ	0	1.5	1.5
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信教育のみ	0	1.5	1.5
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義のみ	(3) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	1.5	1.5
(4) 家族への支援	(4) 同左	1.5	0	1.5	(4) 講義･演習：認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	(4) 講義･演習：認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	1.5	0	1.5

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画					臨時的代替方法による実施内容				
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容					
8 障害の理解 3 時間	8 障害の理解 3 時間				8 障害の理解	8 障害の理解 3 時間				
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 障害の基礎的理解	(1) 同左	0	0.75	0.75	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 同左	0	0.75	0.75	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表します。	(3) 講義・演習：障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表します。	1.5	0	1.5
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 こころとからだのしくみと生活支援技術	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 75 時間			
ア 基本知識の学習 10～13時間	ア 基本知識の学習 11 時間				ア 基本知識の学習	ア 基本知識の学習 11 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2) 同左	0	4	4	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0	4	4
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左	0	4	4	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0	4	4
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 52 時間				イ 生活支援技術の講義・演習	イ 生活支援技術の講義・演習 52 時間			
		通学	通信	合計			通学	通信	合計
(4) 生活と家事	(4) 同左	3	0	3	(4) 講義のみ	(4) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	0	2	2	(5) 通信講習のみ	(5) 通信講習のみ	0	2	2
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	7.5	0	7.5	(6) 講義・演習：更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。	(6) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。	3.75	3.75	7.5
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	7.5	0	7.5	(7) 講義・演習：移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。	(7) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。	3.75	3.75	7.5
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	7.5	0	7.5	(8) 講義・演習：食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	(8) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	3.75	3.75	7.5
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7.5	0	7.5	(9) 講義・演習：入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	(9) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は講義・演習：入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	3.75	3.75	7.5

研修カリキュラム（実施要綱別紙１）	実施計画									臨時的代替方法による実施内容					
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数					実施内容									
(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左		7.5	0	7.5	(10)	講義・演習：排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。			(10)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。		3.75	3.75	7.5
(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左		7.5	0	7.5	(11)	講義・演習：利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。			(11)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。		3.75	3.75	7.5
(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左		0	2	2	(12)	通信講習のみ			(12)	通信講習のみ		0	2	2
(実習)※　（50～55時間中12時間以内）	(実習)※　時間					(実習)※				(実習)※					
介護実習　〇時間															
ホームヘルプサービス同行訪問　〇時間															
在宅サービス提供現場見学　〇時間															
ウ　生活支援技術演習　10～12時間	ウ　生活支援技術演習　12　時間					ウ　生活支援技術演習				ウ　生活支援技術演習				12　時間	
			通学	通信	合計								通学	通信	合計
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左		6	0	6	(13)	講義・実技演習：片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。			(13)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。		3	3	6
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左		6	0	6	(14)	講義・実技演習：片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。			(14)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。		3	3	6
10　振り返り　4 時間	10　振り返り　4　時間					10　振り返り				10　振り返り				4　時間	
			通学	通信	合計								通学	通信	合計
(1) 振り返り	(1) 同左		2	0	2	(1)	講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。			(1)	講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。		2	0	2
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左		2	0	2	(2)	講義のみ			(2)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。		0	2	2
追加カリキュラム　時間															
計　（　130　時間　）	計　（　130　時間　）													（　130　時間）	

※「９こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、１２時間以内とする。